

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200618		
法人名	社会福祉法人 元気村		
事業所名	南方グループホーム翔裕園	ユニット名	はなしょうぶ
所在地	宮城県登米市南方町山成前791-1		
自己評価作成日	平成24年 6月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居期間が入居期間が長期となり加齢、認知症の進行に伴い、今まで出来たことが少しずつ難しくなっている。その中で利用者一人ひとりが職員と一緒にいることにより役割活動が継続して出来るように心掛けている。役割をもつことの重要性を職員自身も十分に理解し取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の一角に、社会福祉法人元気村が運営する介護老人保健施設を中心とした介護福祉施設グループがある。その中に南方グループホーム翔裕園が平屋で2棟建っている。ユニットとユニットの間には円形の花壇を中心に花畑があり、時々花壇の手入れ時等にユニット間の交流が図られている。家族アンケートに見られる様に、職員が明るく気軽に接しており、各種行事等における入居者の様子が写真を中心としたお知らせ「はなしょうぶ・きんもくせい」でタイムリーに届けられ家族の皆さんの安心の元となっている。特に、各施設合同開催の夏祭りには、500~600人の参加があり、地域の介護福祉施設として定着している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年8月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 南方グループホーム翔裕園) 「ユニット名 はなしょうぶ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人独自の基本理念を掲げているほか、事業所の理念も掲げている。	理念については、毎年1月～2月のスタッフ会議で見直している。今年度は前年度を継続することとしている。ポイントは、入居者の健康管理と家族、地域との連携であり、職員の合言葉となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し地元の人々と交流することに努めている。	法人として地域交流担当を配置し、地域の行事等を把握し交流している。グループホームも、法人全体の他に、蓮祭り、千本桜見学等独自の計画を立て、日々の散歩等と合わせ、地域との交流機会づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催のイベントを施設敷地内で開催し地域貢献及び交流している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方の意見を参考にしてサービスの向上に活かしている。	会議は行政関係の参加が少ないことから、今後強力に要請することとしている。地域代表委員から、園芸クラブへのアドバイスがあったり、会議の記録も提案事項、討議結果等の経緯が明確で良好である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問や疑問がある時は積極的に市(長寿介護課)へ確認している。	日常的な福祉に関する連絡の他に、県のキャラクター人形である「むすび丸」を施設の行事へ参加させるための労をとってもらった。最近は特に改正介護保険法に関する解釈等の相談にのっていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル化しておりまた、身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に会議を開き身体拘束しないケアに取り組んでいる。	これまでは法人全体の委員会としていたが、本年5月からグループホーム独自の身体拘束廃止委員会として毎月開催している。身体拘束マニュアルを使用して職員全員が理解を深め、身体拘束を必要としないケアの実現を目指して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者だけでなく家族の話も参考にして総合的に判断している。職員自身も言葉の暴力で虐待していないかなど、自らの態度や意識を職員同士話し合ったり家族からも意見を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員自身が利用者の権利を侵していないか、言葉の暴力で虐待していないかなど、自らの意識や態度を会議等で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約(解約)時は十分な時間をかけて理解・納得していただけるように説明している。疑問点等あるときは面会時など随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話を大切にしており、会話の内容を参考に「何を望んでいるか」を把握しまた、家族に対して苦情窓口を設置し、職員へ話しづらい苦情がある場合は外部にも苦情窓口があることを説明している。	家族会で要望の出た居室へのエアコンの設置を直ちに実行している。家族の意見等を把握するための機会づくりとして毎月の薬の受け取りをお願いしている。家族の意見等は、家族連絡簿に記録し活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議やユニット会議を行っており、職員の意見を反映できるようにしている。	定例の各種会議や日常業務で出された提案については、内容に応じて適切に対応されている。備品に関する提案が多く、最近では「扇風機」や「遮光のためのよしず」の購入が提案され直ちに実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等で実績や努力を評価し、勤務上での悩みがある際も随時対応し、職員のモチベーションを上げられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を積極的に参加してもらえようように啓発し、個々の能力を見極め支援してモチベーションをあげられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、交流する場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や実態調査時、本人からよく話を聞きました、家族を含め担当CMから事前に情報をもらい信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や実態調査時、本人からよく話を聞きました、家族を含め担当CMとの連絡等も密にして信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要性がある場合は併設施設(老健・デイケア)のサービス内容も説明し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしていただきながら、畑作業や食事作り等、利用者にアドバイスを求めたり一緒に作業を行うことにより喜怒哀楽を共にして支え合う関係でいられるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人の知らない一面を引き出し、その場を家族にも見ていただき、本人の様子を共に理解し一緒に支えて行けるような関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には定期的に面会に来ていただき、その際一緒に外出や外泊してもらい、なじみの人や場との関係が継続できるような支援に努めている。	色々な機会を捉え馴染みの人や場に逢える様に努力している。入居者の日常の様子を家族に伝え本人の思いを感じ取っていただく様にしている。本人と家族の思いが一致しない場合などは、粘り強く取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が仲介し利用者同士が良い関係を継続できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後(契約終了後)でも利用者、家族には何か相談がある時は相談して欲しいと説明し、継続的な関わりが出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活の様子を観察し、会話時は本人の潜在的な希望を聞き取り出来るように努め、その希望が実現可能なものかどうか検討し、家族の協力が必要なものについては随時相談している。	入居者が参加している3つのクラブ(茶道、園芸、創作)活動を通して、些細な動作にも気を付けて見ている。食事の際に完食しない場合の原因を探ってその後の食事内容に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当CMより聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々暮らしの現状把握に努め毎月のユニット会議で総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のコメントや行動・家族の意見等を反映した利用者本位の介護計画を作成している。またモニタリングを行い更新時は評価を行っている。	健康状態、症状、痛み、状態の安定性等、121項目の細部にわたる情報収集シートを使って介護サービス計画書へ反映させている。特に、入居者一人ひとりが何らかの活動に参加出来る場をつくっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々の支援記録に記録している。また、独自の個別生活表やサービス内容チェック表を活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的な支援が必要と思われるときは併設施設の看護師に指示を仰ぎ対応するなど事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回の消防訓練やボランティア慰問の依頼など協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も変更する事無くなじみのかかりつけ医の診察を受けている。	家族付添いの往診時には、施設で準備する上申書を持っていくこととしている。日頃の入居者に関する留意点がまとめてあり、かかりつけ医の参考データとなる。往診の結果は「支援記録」に記録し、職員が共有する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に相談したり、みてもらい日常の健康管理に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は本人に面会すると共に病院の相談員と連絡を密にして本人・家族の意向を反映させた再入居を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に面談を実施して重度化した場合、本人にとってどこで過ごす事が一番良いか必要に応じて話し合っている。	前回の調査で重度化に対する対策方針の策定が次に期待するステップとして指摘され、目標達成計画がつくられている。しかし、目標の達成期間が未定となっていて、現時点では具体的な取り組みが見られず前回と同様となっている。	関係する家族と相談しているが、具体的な対応方針の策定に至っていない。その必要性は、施設側として十分理解していることから、その策定に具体的に取り組んでいただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがありスタッフ会議等で共通理解できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	東日本大震災以降マニュアル改正行い訓練も見直している。散歩時等日ごろから地域の方への挨拶等積極的にしている。運営推進会議でも災害対策についても話している。	従来は火災発生を中心としたマニュアルであったが、昨年の震災を受けて「地震マニュアル」を追加した。緊急時には法人内他施設とも連動した通報システムとなっており、夜間でも7名の駆けつけ体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の広報誌に写真を記載するため、契約時に同意書を書いてもらうとともに、個々のプライバシーに配慮し、記録に他者のことを記録するときはイニシャルで記載している。	「馴れ合いと信頼関係」はどうあるべきか、等について倫理マニュアルを活用するなど、内部研修で勉強会を行っている。特に入浴時の同性介護等、羞恥心に配慮した介護に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるような対応を心がけ、また、個々に合わせた声掛けをするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のバックグラウンドを把握、意向を優先し、散歩や余暇活動・入浴・食事クラブ活動等を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の好みにお任せしている。衣類選びに介助が必要な方については本人の意向を確認し一緒に選んでいる。理美容は施設サービスを利用したり、家族と外出しなじみの店で散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けと一緒にしている。自分の役割として積極的に行っていただいている。食事の固さや大きさは咀嚼・嚥下しやすいよう調理しており、誤嚥防止のため昼食前には嚥下体操を取り入れている。	誕生会の場合は、その入居者の希望に応じたメニューとしている。また、食事の際の席も入居者の相性に配慮し、無用のトラブルを防止している。お盆には仙北地方名物の「さんこや汁」を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限や食事バランスについては栄養士が行っている。また水分補給の機会を設けて水分補給の強化に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常の口腔洗浄は、利用者が各自行っている。介助が必要な方は職員が対応している。また、外出より戻った際はうがいをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方は「個別生活表」を活用し、失禁の多い時間帯にトイレ誘導の声掛けをしている。それによりパターンを把握し失敗が少なくなっている。	かつて食事中にトイレに駆け込み失敗する入居者がいたことから、個別生活表で生活リズムを把握し、事前の声掛けに努めている。夜間についても事前に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取れるように食事や間食時に配慮していると共に自由に利用できるように食堂に茶器を設置している。また、ヨーグルトを毎日取り入れており、また散歩や体操を行い体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の個々のタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただいている。「入りたくない」という方には意向を尊重し、足浴等勤めて清潔保持に努めている。	入浴については、入居者の多様な希望があり、その希望に合うよう調整している。主な希望は、毎日入浴、男性の入浴後は厭、見たいテレビ番組の前に入る、等である。時間がかち合った場合は柔軟な調整をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩や余暇活動を取り入れてもらい、生活にリズムを作ってもらっている。午睡される方には長時間にならないよう声掛けを行い夜間熟睡できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を確認すると共に薬の説明書をよく理解して、利用者が安心して服薬できるように支援している。飲み忘れがないか、服薬チェック表活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「出来ること」を把握して役割を持って生活していただけるようにしており、行っていただいた際は感謝の気持ちを述べ共に喜び張り合いを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣へ散歩に出掛けており、また定期的に地域への外出ドライブ行い買い物等行っている。家族にも定期的な外出を依頼している。	入居者の状況によって、困難な場合もあるが、必ず全員に声掛けをしている。季節に応じた場所(花見、花菖蒲等)や行事等への参加での外出等である。時には入居者の地元付近へのドライブもあり昔との変化に驚いた表情を見せる時もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理しており、自己管理を希望される方は家族の了解をもらい管理していただいている。買い物する時は本人へお金を渡し支払いしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方もいて、投函の代行をしている。家族には面会時に郵送先を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな祭りには段飾り・七夕会には竹飾り・正月には水木、門松を飾り季節感を出せる空間づくりに勤めている。壁には広報誌や行事を行った際に撮影した写真を掲載している。	一日の殆どの時間をリビング兼食堂ですごしている。基本的には、入居者の個性を尊重して静かな見守りに徹している。創作クラブの作品や、色々な場面での入居者の写真が飾られており、懐かしい思い出が溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンにはソファを設置し気の合った利用者同士で会話したり休憩したりして過ごしており、和室では独りで好きな音楽を聴いて過ごすかたもいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はできるだけ自宅で使い慣れたものや好みの物を持ち込んでいただくようにしている。本人の希望や必要と思われる物については家族と相談しその都度用意していただいている。	居室の環境は、入居者や家族の意向により色々であるが、担当の職員が家族と相談して居心地の良い環境づくりをしている。家族の写真を飾っている入居者も多い。清掃は担当職員と入居者が分担して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すり設置し浴室には滑り止めマットを使用して安全な環境づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200618		
法人名	社会福祉法人 元気村		
事業所名	南方グループホーム翔裕園	ユニット名	きんもくせい
所在地	宮城県登米市南方町山成前791-1		
自己評価作成日	平成24年 6月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居期間が長期となり加齢、認知症の進行に伴い、今まで出来たことが少しずつ難しくなっている。その中で利用者一人ひとりが職員と一緒にいることにより役割活動が継続して出来るように心掛けている。役割をもつことの重要性を職員自身も十分に理解し取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の一角に、社会福祉法人元気村が運営する介護老人保健施設を中心とした介護福祉施設グループがある。その中に南方グループホーム翔裕園が平屋で2棟建っている。ユニットとユニットの間には円形の花壇を中心に花畑があり、時々花壇の手入れ時等にユニット間の交流が図られている。家族アンケートに見られる様に、職員が明るく気軽に接しており、各種行事等における入居者の様子が写真を中心としたお知らせ「はなしょうぶ・きんもくせい」でタイムリーに届けられ家族の皆さんの安心の元となっている。特に、各施設合同開催の夏祭りには、500~600人の参加があり、地域の介護福祉施設として定着している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年8月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 南方グループホーム翔裕園)「ユニット名 きんもくせい」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人独自の基本理念を掲げているほか、事業所の理念も掲げている。	理念については、毎年1月～2月のスタッフ会議で見直している。今年度は前年度を継続することとしている。ポイントは、入居者の健康管理と家族、地域との連携であり、職員の合言葉となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し地元の人々と交流することに努めている。	法人として地域交流担当を配置し、地域の行事等を把握し交流している。グループホームも、法人全体の他に、蓮祭り、千本桜見学等独自の計画を立て、日々の散歩等と合わせ、地域との交流機会づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催のイベントを施設敷地内で開催し地域貢献及び交流している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方の意見を参考にしてサービスの向上に活かしている。	会議は行政関係の参加が少ないことから、今後強力に要請することとしている。地域代表委員から、園芸クラブへのアドバイスがあったり、会議の記録も提案事項、討議結果等の経緯が明確で良好である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問や疑問がある時は積極的に市(長寿介護課)へ確認している。	日常的な福祉に関する連絡の他に、県のキャラクター人形である「むすび丸」を施設の行事へ参加させるための労をとってもらった。最近は特に改正介護保険法に関する解釈等の相談にのっていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル化しておりまた、身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に会議を開き身体拘束しないケアに取り組んでいる。	これまでは法人全体の委員会としていたが、本年5月からグループホーム独自の身体拘束廃止委員会として毎月開催している。身体拘束マニュアルを使用して職員全員が理解を深め、身体拘束を必要としないケアの実現を目指して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者だけでなく家族の話も参考にして総合的に判断している。職員自身も言葉の暴力で虐待していないかなど、自らの態度や意識を職員同士話し合ったり家族からも意見を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員自身が利用者の権利を侵していないか、言葉の暴力で虐待していないかなど、自らの意識や態度を会議等で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約(解約)時は十分な時間をかけて理解・納得していただけるように説明している。疑問点等あるときは面会時など随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話を大切にしており、会話の内容を参考に「何を望んでいるか」を把握しまた、家族に対して苦情窓口を設置し、職員へ話しづらい苦情がある場合は外部にも苦情窓口があることを説明している。	家族会で要望の出た居室へのエアコンの設置を直ちに実行している。家族の意見等を把握するための機会づくりとして毎月の薬の受け取りをお願いしている。家族の意見等は、家族連絡簿に記録し活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議やユニット会議を行っており、職員の意見を反映できるようにしている。	定例の各種会議や日常業務で出された提案については、内容に応じて適切に対応されている。備品に関する提案が多く、最近では「扇風機」や「遮光のためのよしず」の購入が提案され直ちに実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等で実績や努力を評価し、勤務上での悩みがある際も随時対応し、職員のモチベーションを上げられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を積極的に参加してもらえようように啓発し、個々の能力を見極め支援してモチベーションをあげられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、交流する場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や実態調査時、本人からよく話を聞きました、家族を含め担当CMから事前に情報をもらい信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や実態調査時、本人からよく話を聞きました、家族を含め担当CMとの連絡等も密にして信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要性がある場合は併設施設(老健・デイケア)のサービス内容も説明し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしていただきながら、畑作業や食事作り等、利用者にアドバイスを求めたり一緒に作業を行うことにより喜怒哀楽を共にして支え合う関係でいられるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人の知らない一面を引き出し、その場を家族にも見ていただき、本人の様子を共に理解し一緒に支えて行けるような関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には定期的に面会に来ていただき、その際一緒に外出や外泊してもらい、なじみの人や場との関係が継続できるような支援に努めている。	色々な機会を捉え馴染みの人や場に逢える様に努力している。入居者の日常の様子を家族に伝え本人の思いを感じ取っていただく様にしている。本人と家族の思いが一致しない場合などは、粘り強く取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が仲介し利用者同士が良い関係を継続できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後(契約終了後)でも利用者、家族には何か相談がある時は相談して欲しいと説明し、継続的な関わりが出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活の様子を観察し、会話時は本人の潜在的な希望を聞き取り出来るように努め、その希望が実現可能なものかどうか検討し、家族の協力が必要なものについては随時相談している。	入居者が参加している3つのクラブ(茶道、園芸、創作)活動を通して、些細な動作にも気を付けて見ている。食事の際に完食しない場合の原因を探ってその後の食事内容に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当CMより聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々暮らしの現状把握に努め毎月のユニット会議で総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のコメントや行動・家族の意見等を反映した利用者本位の介護計画を作成している。またモニタリングを行い更新時は評価を行っている。	健康状態、症状、痛み、状態の安定性等、121項目の細部にわたる情報収集シートを使って介護サービス計画書へ反映させている。特に、入居者一人ひとりが何らかの活動に参加出来る場をつくっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々の支援記録に記録している。また、独自の個別生活表やサービス内容チェック表を活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的な支援が必要と思われるときは併設施設の看護師に指示を仰ぎ対応するなど事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回の消防訓練やボランティア慰問の依頼など協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も変更する事無くなじみのかかりつけ医の診察を受けている。	家族付添いの往診時には、施設で準備する上申書を持っていくこととしている。日頃の入居者に関する留意点がまとめてあり、かかりつけ医の参考データとなる。往診の結果は「支援記録」に記録し、職員が共有する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に相談したり、みてもらい日常の健康管理に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は本人に面会すると共に病院の相談員と連絡を密にして本人・家族の意向を反映させた再入居を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に面談を実施して重度化した場合、本人にとってどこで過ごす事が一番良いか必要に応じて話し合っている。	前回の調査で重度化に対する対策方針の策定が次に期待するステップとして指摘され、目標達成計画がつくられている。しかし、目標の達成期間が未定となっていて、現時点では具体的な取り組みが見られず前回と同様となっている。	関係する家族と相談しているが、具体的な対応方針の策定に至っていない。その必要性は、施設側として十分理解していることから、その策定に具体的に取り組んでいただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがありスタッフ会議等で共通理解できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	東日本大震災以降マニュアル改定を行い訓練も見直している。散歩時等日ごろから地域の方への挨拶等積極的にしている。運営推進会議でも災害対策についても話している。	従来は火災発生を中心としたマニュアルであったが、昨年の震災を受けて「地震マニュアル」を追加した。緊急時には法人内他施設とも連動した通報システムとなっており、夜間でも7名の駆けつけ体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の広報誌に写真を記載するため、契約時に同意書を書いてもらうとともに、個々のプライバシーに配慮し、記録に他者のことを記録するときはイニシャルで記載している。	「馴れ合いと信頼関係」はどうあるべきか、等について倫理マニュアルを活用するなど、内部研修で勉強会を行っている。特に入浴時の同性介護等、羞恥心に配慮した介護に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるような対応を心がけ、また、個々に合わせた声掛けをするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のバックグラウンドを把握、意向を優先し、散歩や余暇活動・入浴・食事クラブ活動等を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の好みにお任せしている。衣類選びに介助が必要な方については本人の意向を確認し一緒に選んでいる。理美容は施設サービスを利用したり、家族と外出しなじみの店で散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒にしている。自分の役割として積極的に行っていただいている。食事の固さや大きさは咀嚼・嚥下しやすいよう調理しており、誤嚥防止のため昼食前には嚥下体操を取り入れている。	誕生会の場合は、その入居者の希望に応じたメニューとしている。また、食事の際の席も入居者の相性に配慮し、無用のトラブルを防止している。お盆には仙北地方名物の「さんこや汁」を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限や食事バランスについては栄養士が行っている。また水分補給の機会を設けて水分補給の強化に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常の口腔洗浄は、利用者が各自行っている。介助が必要な方は職員が対応している。また、外出より戻った際はうがいをしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方は「個別生活表」を活用し、失禁の多い時間帯にトイレ誘導の声掛けをしている。それによりパターンを把握し失敗が少なくなっている。	かつて食事中にトイレに駆け込み失敗する入居者がいたことから、個別生活表で生活リズムを把握し、事前の声掛けに努めている。夜間についても事前に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取れるように食事や間食時に配慮していると共に自由に利用できるように食堂に茶器を設置している。また、ヨーグルトを毎日取り入れており、また散歩や体操を行い体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の個々のタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただいている。「入りたくない」という方には意向を尊重し、足浴等勤めて清潔保持に努めている。	入浴については、入居者の多様な希望があり、その希望に合うよう調整している。主な希望は、毎日入浴、男性の入浴後は厭、見たいテレビ番組の前に入る、等である。時間がかち合った場合は柔軟な調整をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩や余暇活動を取り入れてもらい、生活にリズムを作ってもらっている。午睡される方には長時間にならないよう声掛けを行い夜間熟睡できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を確認すると共に薬の説明書をよく理解して、利用者が安心して服薬できるように支援している。飲み忘れがないか、服薬チェック表活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「出来ること」を把握して役割を持って生活していただけるようにしており、行っていただいた際は感謝の気持ちを述べ共に喜び張り合いを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣へ散歩に出掛けており、また定期的に地域への外出ドライブ行い買い物等行っている。家族にも定期的な外出を依頼している。	入居者の状況によって、困難な場合もあるが、必ず全員に声掛けをしている。季節に応じた場所(花見、花菖蒲等)や行事等への参加での外出等である。時には入居者の地元付近へのドライブもあり昔との変化に驚いた表情を見せる時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理しており、自己管理を希望される方は家族の了解をもらい管理していただいている。買い物する時は本人へお金を渡し支払いしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方もいて、投函の代行をしている。家族には面会時に郵送先を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな祭りには段飾り・七夕会には竹飾り・正月には水木、門松を飾り季節感を出せる空間づくりに勤めている。壁には広報誌や行事を行った際に撮影した写真を掲載している。	一日の殆どの時間をリビング兼食堂ですごしている。基本的には、入居者の個性を尊重して静かな見守りに徹している。創作クラブの作品や、色々な場面での入居者の写真が飾られており、懐かしい思い出が溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンにはソファを設置し気の合った利用者同士で会話したり休憩したりして過ごしており、和室では独りで好きな音楽を聴いて過ごすかたもいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はできるだけ自宅で使い慣れたものや好みの物を持ち込んでいただくようにしている。本人の希望や必要と思われる物については家族と相談しその都度用意していただいている。	居室の環境は、入居者や家族の意向により色々であるが、担当の職員が家族と相談して居心地の良い環境づくりをしている。家族の写真を飾っている入居者も多い。清掃は担当職員と入居者が分担して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すり設置し浴室には滑り止めマットを使用して安全な環境づくりに努めている。		